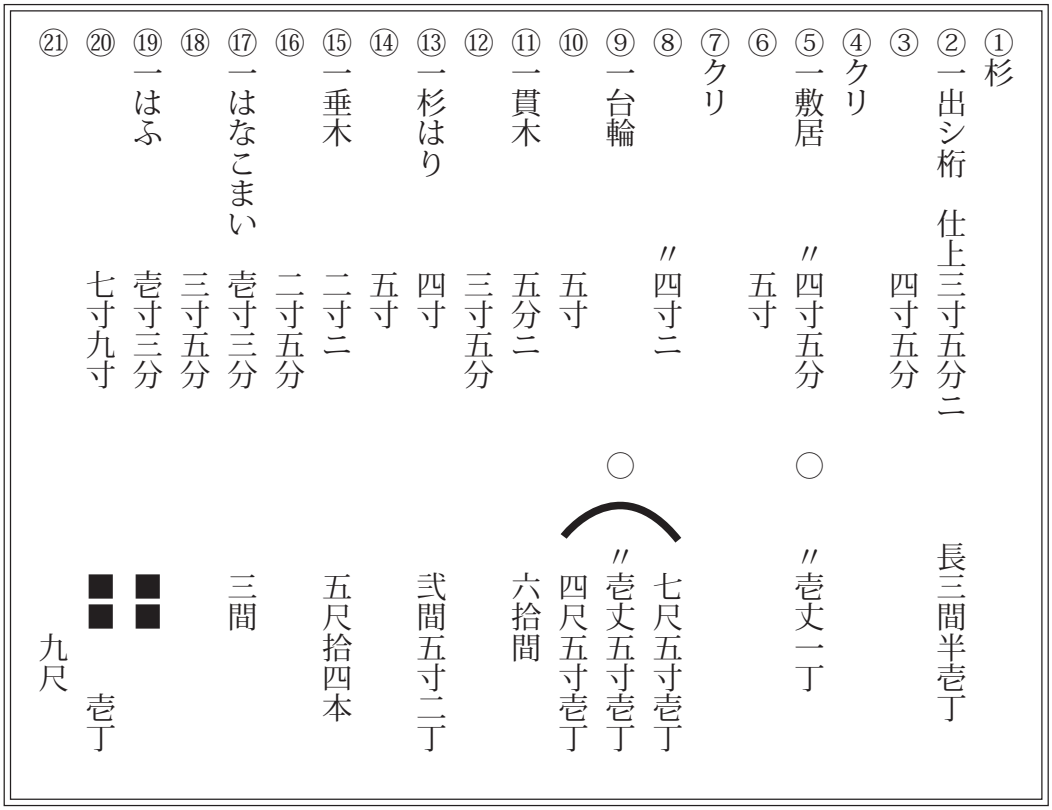
くずし字入門講座 No.3　テーマ「数字・度量衡」　第４問　解説と読解例



資料中に登場する木材

杉（すぎ）：古くから用いられている日本を代表する木材。軽くて軟らかめ、耐久性は中庸。家具や下駄、割り箸や造船など用途が広い。

栗（くり）：肌目が荒いが、耐久性が高く、重くて硬い。家を建てる際、丈夫にするために、最小限でも家の土台に用いられた。

以前の課題では、欅（けやき）や松も登場していました。特に、欅は耐久性が高く、寺社建築や城郭建築に用いられました。

（①～㉑の丸数字は首部から何行目かを表します。）

今回の課題は、以前取り組んだ屋敷の図面ですので、全体を通して数字や単位を表す漢字が多いです。こちらも何回も同じ字が登場しているため、一度出てきた字の特徴を覚えておいて解読に役立てるというテクニックを活用しましょう。

①～③　「**五**」は２か所登場していますが、それぞれくずし方が異なっています。とはいえ、書き順と形状から「五」を導くことができるはずです。このように、同じ字であってもくずし方が異なっているというパターンはあります。ですから、先入観を強く持たずに文章全体から読み取るという基本を大切にしてください。

「**間**」が難問ですが、以前登場しているので覚えていた方も一定数いるのではないでしょうか。形状が似ても似つかぬようなくずし方となっています。門構えの字はこのようなくずし方となりますから、関連して「関」「門」などの字も辞書で見ておくと良いでしょう。

「**半**」は書き順がそのまま、まるで行書体のように見える程度のくずし方ですので、特に難易度は高くありません。

④～⑥　「**丈**」がやっかいですね。「壱」とくっついているように見えるため、どこからどこまでで１字なのかを見極める必要があります。形状をよく見て判別しましょう。また、「尺」にも見えますが、これでは木材の寸法が短すぎて他の木材の寸法と合いません。この点から「丈」を導き出すこともできるでしょう。

⑦～⑩　どこからどこまでで１文字なのかを観察し、書き順を追っていけば１文字ずつ読めるでしょう。また、同じ字が何度も登場していて、しかも形状が似ています。数字＋単位と考え、それぞれ考えられる字を探していきましょう。

しいて言えば、「**尺**」と「**丈**」がよく似ていますが、「口」っぽいパーツがあれば「尺」と判断できます。また、「丶」っぽいパーツがある方が「丈」です。

⑪～⑫　「**拾**」が初登場ですね。「十」としていることもありますが、このように「拾」となっていることもしばしばあります。手偏の字であること、つくりに屋根のようなパーツが見えることから、それらしい字を推測して辞書で探しましょう。また、この字を飛ばして「六」「間」を先に読んでしまい、間に入りそうな字を探すというやり方もあります。

⑬～⑭　「**弐**」が難しそうです。偏と旁があるように見えますが、「間」の上に来るということは数字でしょうから、ここは落ち着いて数字の中からそれらしい字を探しましょう。

⑮～⑯　再び「**拾**」が登場し、しかもくずし方が少し異なっています。しかし、手偏であることや屋根のようなパーツが見えるので、先ほど登場した「拾」ではないかと推測できます。

また、「**本**」が「**丁**」に見えるかもしれませんが、横線が２本あること、「丶」のようなパーツが見えることから「本」と判断できます。

⑰～㉑　ここまで読めれば、もう安心です。これまで登場した字ばかりですので、読むのにさほど苦労しないはずです。もし、分からない字があれば、ここまで読んできた部分を見返しましょう。